

木曾町図書館建設 運営検討委員会報告

報告者 松 井 淳 一

昨年12月定例会における図書館建設に関する請願書の採択を受け、本年2月より図書館建設運営検討委員会20名が延べ11回にわたる会議を開いてきた。9月18日に委員会の答申が出ましたので簡略に報告したい。

検討は4つのカテゴリー（施設、位置、司書、資料）に関して進められた。検討の手法としては、多くの委員の様々な意見を集約するためワークショップを多用しおこなわれた。

一、建設運営にあたっての基本方針「木曾町の図書館が目指すもの」（資料1参照）

複合機能がある。（会議室、生涯学習室、博物館、ギャラリー…）すべてにユニバーサルな施設。

基本方針は検討をおこなっていくうえで、問題が生じた時、立ち戻る所として多くの時間と労力を費やし作成された。今後おこなわれるだろう建設運営に関する検討もこの方針が基本となる。

本館は公共、公益的施設に近い事。（駅、学校、庁舎、スーパー、銀行…）公民館図書は分館で利用。移動図書館、宅配システムなどの高齢化に配慮したシステムの構築。

二、委員会が提案する図書館について（資料2参照）

司書について サービスの提供に不可欠。

レファレンスサービスも大切な仕事になる。

司書の採用は建設検討段階でおこなうのが好ましい。

資料について

住民の求めに応じてそろえておく必要がある。木曾

がわかる資料を充実させる。資料2は検討を集約して

あり明解にまとめてある。公共図書館の役割の部分では、本の貸し借りだけが図書館の機能ではなく町づくりの拠点になることを報告している。

効果のところでは人材育成、能力開発についてもふ

れている。資料2が答申のあらましではあるが、その他にも採

択にあたって議会から付された9項目の事項（資料3）

についても細かな検討がなされ、問題、課題の解決策が提案されている。

建設のための補助制度、図書システムについても検討、報告がなされている。

様々な考え方があがるが検討委員会のまとめは次のようになっている。

・図書館の力を発揮するために、既存の施設ではなく、是非新設を。建設運営委員会の活動はこれで終わりではなく、町づくりや住民益を十分に考えながら図書館の力を信じ、さらなる検討をすすめていく予定である。

・図書館は町づくり、人づくりの一助。

・図書館は木曾の歴史をまもり、文化を創造する力を育む。

・図書館は木曾の歴史をまもり、文化を創造する力を育む。

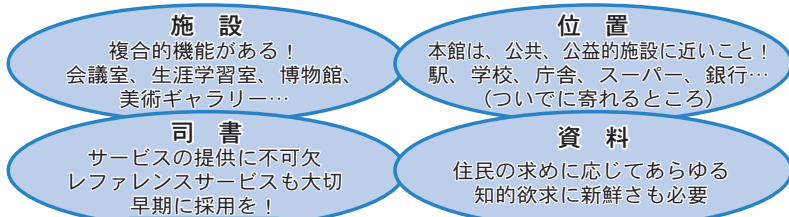
・図書館の力を発揮するために、既存の施設ではなく、是非新設を。

資料1 木曾（町）の図書館が目指すもの（案）

私たちの図書館は、気軽に立ち寄れて、誰でも親しめるところです。これは、私たちのバイブルです。困ったとき、問題が発生したときには、いつもここに戻りましょう。

- ・気軽に立ち寄れて、誰でも親しめるところです。
- ・あなたの知りたい、学びたい気持ちを応援し、自分づくりの場を提供します。
- ・情報を発信し、出会いと交流、仲間づくりを助けます。
- ・憩いの場を提供し、人と人との絆が深められます。
- ・木曾の文化の拠点です。そして、木曾がわかる「施設」です。
- ・いつも町民が参画しています。また無駄のない運営を目指します。
- ・明るく温かく、一日いられる。自宅のような「雰囲気をつくります。

資料2 私たちが提案する図書館とは



資料3 木曾町議会から付された事項

1. 建設主体は、木曾町か、木曾郡か
2. どのような内容の図書館とするか
3. 既存の公民館図書室、学校図書館との連携
4. ボランティア組織の確立
5. 昨今の状況についての十分な調査検討
6. 生涯学習、子育て支援等を視野に入れた統合的施設としての検討
7. 歴史文化的資料の整理保管機能に関して
8. 住民からの寄贈、貸与を含めた蔵書収集手法の検討、運営整備費の削減
9. 国、県の支援は受けられるか